

事業の概要

- モデル市町において、福祉や教育などの子供の育ちに関係する様々な情報を統合し、その情報を基にデータ分析を活用しリスク（児童虐待など）予測を行う
- 統合された情報やリスク予測結果を職員が確認し、要支援児童として要保護児童対策地域協議会に登録後、年齢に応じてネウボラの保健師や学校の校長に情報を共有し、確認を依頼
- 関係者への調査を踏まえて支援対象者を決定し、予防的な支援を継続的に行う

データ統合・予測

福祉

児童虐待



母子保健



生活保護



児童扶養手当



etc

学校

出欠席



保健室来室記録



統合

AIモデルによる
リスク予測※



※機械学習（教師あり学習）
解釈性の高い回帰モデルを使用
最終的に人が判断

予測確認・調査

- ・リスク予測を確認
- ・予測の根拠や
個人情報を確認

子ども家庭総合
支援拠点

家庭児童相談員



要支援児童として
要保護児童対策
地域協議会に
登録

年齢に応じて関係者
に共有・確認を依頼し、
安否、養育状況、登校
状況等を確認

ネウボラ

保健師等



学校

校長等



対象者決定

調査結果を踏まえ
支援対象者を決定



予防的支援



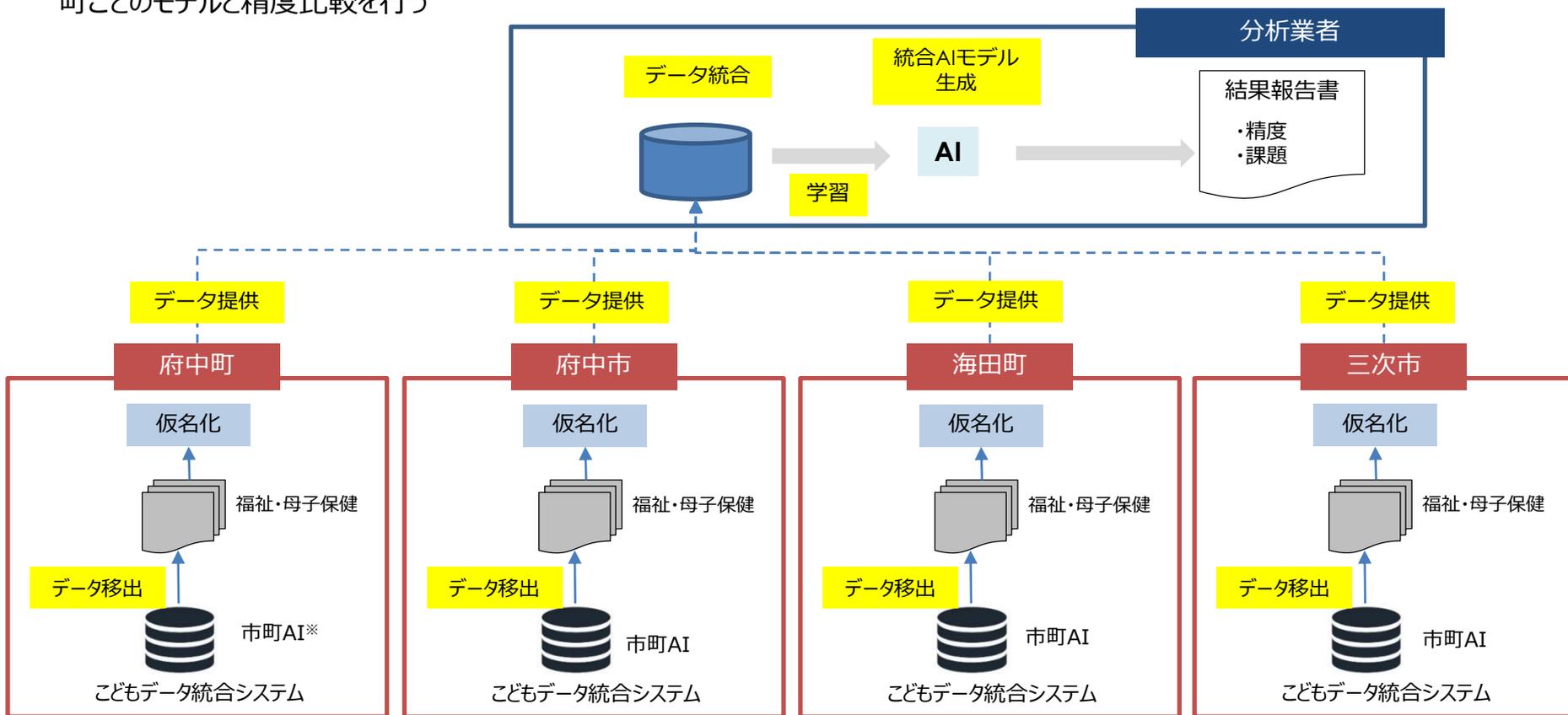
養育支援
訪問、
健診時の
面談、
学校での
見守り
など

来所



統合AIモデルの生成方法（令和5年度）

- 分析業者が各市町から提供されたデータを仮名化
- 分析業者がデータ統合、学習、統合AI※モデル生成（実装はしない）、検証などを実施
- 結果報告書で精度や課題をまとめる
- 校務支援システム（学校）のデータは蓄積が十分でないことから、当面、就学前のデータを中心とした予測モデルを作成し、市町ごとのモデルと精度比較を行う



※本事業におけるAIとは機械学習の内、「教師あり学習」であり、かつ解釈性の高い回帰モデルをいう。